

引きは大体1日1回(2回するときもあります)で、干満の差は1m程度でそれほど大きくありません。

南極では隕石が多くみつかるとはですか？

南極には隕石が発見しやすいという特徴があります。氷床の上に落ちた隕石は氷の中に閉じこめられ、氷とともに海に向かって流れていきます。しかし、山脈などで氷の流れがとめられた場所では、氷は風にけずられたり、昇華したりして消えていくので、閉じこめられた隕石は氷の表面に取り残されてしまいます。黒い隕石は氷の上でよく目立つので、すぐに見つかります。全世界の隕石の1/3、約17,000個が日本にあります。



南極ではロケットを打ち上げたそうですね？

夏期間中にロケット打ち上げの為に必要な、発射台、ランチャーの建設、発射管制盤、レーダー装置の設置等を完了し、さらに2月10日と17日の2回打ち上げました。ロケットはS-160JAという、低温耐性のある固体燃料ロケットで、全長：3,890mm、直径：160mm、重量：113kg、到達高度：90km(ペイロード5kg時)という性能のものです。ロケットでは、オゾン観測、およびオーロラ観測(電子密度観測)が行われました。

蜂の巣岩(はちのすロック)とは何でしょうか？



南極で「蜂の巣岩」という表面が穴だらけの岩がみられます。これは南極の強い風か、風化によってもろくなった岩の表面にへこみを作り、へこんだ部分が飛んできた砂流によってさらに削られ、だんだんと穴かが深くなっていったものと考えられています。

千葉さん、ありがとうございました。

「ふじ」航跡図、ロケット、蜂の巣岩の画像は、国立極地研究所「南極・北極科学館」(多摩都市モノレール高松駅下車徒歩10分 立川市緑町10-3)にて撮影しました。

『南極観測隊・記録フィルム 上映会』鑑賞のしおり 制作：滝山住宅管理組合理事会